

あいち農産物生産流通レポート

平成19年9月号

情報サロン		
・農業総合試験場研究員が「農楽の先生」になって出前授業 (農業総合試験場)	-----	1
地域トピックス		
・愛知県ぶどう現地研究会が開催されました (豊田加茂農林水産事務所)	-----	2
東日本情報		
・平成18年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売 結果について (東京事務所)	-----	3
西日本情報	-----	5
・第29回果実品質改善共進会が開催されました (食育推進課)		
フラワーページ		
・(株)大田花き 在宅セリ始まる (JAあいち経済連 東京営業所 細野智史)	-----	7
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し	-----	9
花き		
・切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2007年6月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ
愛知県農林水産部食育推進課

(03)-5492-5400
(052)-954-6417

のうがく
農業総合試験場研究員が「農楽の先生」になって出前授業

「農楽の先生」の概要

未来を担う子供たちに、農業や「食」の重要性への理解と農業技術に対する正しい知識を深めてもらうため、愛知県農業総合試験場（以下「農総試」）は、県内の小中学校に「農楽の先生」として研究員を派遣する出前授業を行っています。

平成18年度は実験や実習を交え延べ33回の出前授業を行い、受講した児童・生徒は延べ2,171人でした。今年度も、26校から申し込みがあり、延べ33回の出前授業を計画・実施しています。

出前授業の内容

農総試の研究・開発した技術を中心に、子供たちが興味を持って農業を学べる19のテーマを設定しました。主なテーマと内容は次のとおりです。

テーマ	主な内容
土の謎に挑戦	土中の生物の観察や土壌の吸着力等の実験を通じて、土の役割を学ぶ。
最新米作りと水田の秘密	不耕起V溝直播栽培の実演や水田の浄化機能の実験など、最新の米作りと水田の機能について学ぶ。
『卵』その不思議な世界	受精卵からひよこになる生命の営みについて学ぶ。また、卵黄色の不思議や保存で変わる卵の品質などを体感する。

テーマは、他に、「時を超える牛と豚」「山間地農業を学ぶ」「農作物を病害虫から守れ」「野菜の健康診断」「植物の優れた能力を発見」「田んぼと生き物の関わり」「マメの力」「おいしい果物の診断法」「環境と体にやさしい『お茶』作り」「愛知の伝統野菜」などです。

子供や先生の意見

出前授業を受けた児童・生徒から、「大変楽しく勉強できた」などの感想が多く寄せられました。また、先生からも「農業のすばらしさを再認識した」「派遣を継続してほしい」との意見や要望が寄せられています。

新たな取り組み～先生向け公開講座～

今年度は、新たな取り組みとして、8月7、9日に小中学校の先生向け公開講座を開きました。これは、今後の学校教育での活用に向けて、先生に農業の本当の姿を知ってもらうのがねらいです。

延べ76名の先生方が、農総試が開発し、現場に普及している技術・品種や、将来発展が見込まれる先端技術を実験と実習を通じて学びました。



先生向け公開講座の様子(トマトの栄養診断)

「愛知県ぶどう現地研究会」が開催されました。

愛知県果樹振興会主催による愛知県ぶどう現地研究会が平成19年7月12日（木）に開催され、県内生産者等300名が参加しました。

参加者は、午前中、豊田市内2か所、三好町内1か所で園地視察を行い、午後から三好町文化センターサンアートでの三好町長等来賓を迎えた研究会では、農業改良普及課による産地紹介と2つの講演を聴き、活発な意見交換を行いました。

最初に、「地球温暖化におけるぶどうの生育への影響と今後の対策について」と題して、（独）農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所の杉浦俊彦氏による講演が行われました。

講演では、日本の平均気温は20世紀中に約1度上昇し、21世紀にはさらに2.5度から4度上昇する見通しで、今後、収穫期間の変動や晩霜害、高温障害等の増加が予想される。永年性作物の果樹を、ほ場替えや品種の転換などにより短期間に栽培環境を整えて地球温暖化に対応させることが難しいため、早めに対策を講じる必要があるとの助言がありました。

次いで、「これからのぶどう新品種について」と題して、農業総合試験場 園芸研究部落葉果樹グループ 主任研究員の上林義幸氏による講演が行われました。

講演では、これからの消費者ニーズは、大粒、種なし、皮ごと食べられる、味に特徴がある・味がよい、品質に見合った価格の5つに集約されることから、全国的にこれらの条件を満たす方向性で、新品種を育成しているとの説明がありました。

品種を選択する際は、実物を見て、栽培し、食べてみるのが重要である。現在、農業総合試験場で栽培している品種のうち、黒系は不動の地位の巨峰系、赤系は新品種の登場が望まれ、青系は翠峰、シャインマスカットが将来有望との紹介がありました。



現地研究会



会場風景

平成18年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について

京浜市場愛知県野菜連絡会による秋冬野菜販売反省会(平成19年7月10日開催)で報告のあった販売概況のうち、先月号のキャベツ、トマト以外の品目を紹介する。

品目別販売概要(京浜市場愛知県野菜連絡会の各研究会がまとめたもの)

1 ミニトマト

(1) 販売経過

年内から年明け2月まで、暖冬で前年に比べ数量的に恵まれ、年内価格は前年を下回ったが、年明け以降は堅調な価格で推移した。3月は寒の戻りがあり、数量は伸びなかったため、価格は前年を上回った。4月は気温の上昇とともに数量が増え、価格は下がった。

(2) 競合産地の動向

千葉県：作付面積は前年並み。

熊本県：作付面積は前年より約1割増。京浜市場のウェイトは増加。

宮崎県：作付面積は前年並み。

(3) 消費動向

安心でおいしいミニトマトの要望が強まりつつある。

(4) 野菜連絡会から愛知県への提言

- おいしいミニトマトづくりと品質の安定
- 的確な産地情報の提供と計画的で安定的な出荷(大型連休時の対応を含む)

2 ブロッコリー

(1) 販売経過

昨年の気温は平年より高めのため、11月からの販売は、競合産地の集中出荷と重なったこと、重量野菜の安値が続いたこと、クリスマスや年末年始等の需要期に量販店が前年同様高めに価格を設定したことなどから、年内は苦しい状態が続いた。

年明けは、出荷量に比べて比較的到高値で推移した。3月以降は、出荷の前進した産地の出荷終了やアメリカ等での異常気象から輸入ものが少なかったため、全国的に供給不足に陥り、高値基調の販売となった。

(2) 競合産地の動向

埼玉・群馬・香川・福岡・栃木などが愛知と競合する。競合産地の作付面積は、例年並みから増加傾向にある。特に、香川県は今年度も京浜市場向けの出荷を大幅に増やしており、次年度以降もさらに京浜地区のウェイトを高めるものと予想される。

(3) 消費動向

ブロッコリーは栄養価の高い野菜として消費者の認知度も高く、また量販店でのパッケージング等の加工を必要としないことから、量販店にとって、売上げ・利益の見込める顧客満足度の高い野菜である。今後、売り場面積の拡大も期待でき、需要の伸びが見込める。

(4) 野菜連絡会から本県への提言

量販店や仲卸は品質面で本県産ブロッコリーを高く評価しているため、予約相対取引の拡大、週末集中型の出荷体制、消費宣伝会の開催など、シーズンを通じた生産・出荷の拡大をお願いする。

3 おおば

(1) 販売経過

平成17年度はテレビ放映により、例年になく高単価で推移したが、平成18年度は前年度に比べ単価は88%と低迷した。7月は、各産地とも曇天で出荷量は大幅に減少し、パック単価が600円以上の高値続きで、需要期の盆前の注文が減り、相場が急落した。また、年末は中国産おおばが輸入停止となり、業務関係による市場のレギュラー品の購入で単価は前年比114%と高騰し、業務関係への中国産の浸透が窺えた。

(2) 競合産地の動向

茨城、大分、中国、高知、香川が愛知と競合する、東京都中央卸売市場の取扱いシェアで見ると、本県産が55%(前年比2.5%減)、茨城産35.5%(同2.7%増)、中国産1.3%(同0.8%減)となっている。

(3) 消費動向

一般家庭での消費はやや低迷していると思われるが、単価が下がっても売価は一束78円から98円と基本的に変化しなかった。また、加工業務向けには、本県産よりも安値で販売する産地が増えている。

(4) 野菜連絡会から本県への提言

卸売会社が、中国産などの輸入対策として、業界関係に年間値決め販売を推進した結果、連休前などに、業界関係が市場のレギュラー販売品を買占めることはなくなり、価格の高騰は減った。こうした状況で、今後、価格を形成していくためには、契約価格の見直しや加工向けおおばの販売拡大、量販店での商品の回転率を高める販売方法の提案などをお願いする。

4 その他

- ふきの需要は、年内10月から12月は少なく、2月以降、春商材として引き合いが強くなる。本県への提言として、抑制ふきの傷み対策と促成ふきの出荷量の確保を望む。
- さやえんどうは、グリーンが濃く、鮮度の良いもの(紅姫)は愛知ブランドとして今後も期待できるので、作付面積・生産量の拡大と市場の集約、出荷量の平準化が望まれる。

第29回果実品質改善共進会（ぶどうの部）が開催されました

平成19年8月21日（火）新城市のJA愛知東本店にて第29回果実品質改善共進会（主催：愛知県、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県果樹振興会）が開催されました。今回はぶどうの部で、品評会のほか、新城市立舟着小学校の児童・父兄による親子審査、また、一般の消費者を対象にした即売会もあり、暑い中、多くの人が集まりました。

ぶどう品評会

品評会は、生産者の栽培技術向上と消費拡大を目的に、例年、「旬」の時期に開催されています。本年は7月の低温で生産の遅れが心配されましたが、8月に入り回復、着色、糖度もって品質良好ということで、県内各地から選りすぐりのぶどうが72点出品されました。大半は巨峰でしたが、一部シャインマスカット等も出品されました。審査は5房1組で、重量の測定に続いて、外観、糖度、品質の3区分で審査が順次行われました。外観は、5房の揃い具合、病虫害・傷の有無、形、色沢（紫黒色以上）、ブルーム（ぶどうの粒に付いている白い粉）・薬斑の有無を審査員が一つずつ確認していきました。出品されたぶどうは平均糖度19.6%（最高糖度23.7%）あり、甘さも十分でした。出品されたぶどう一つずつを丁寧に審査し、農林水産大臣賞をはじめとする特選15点、入選6点を決定しました。

さらに、親子審査員が、消費者特別賞1点、消費者賞2点を決定しました。審査を行った児童の舟着小学校では、校内でぶどうの栽培を行っているとのこと。6年生が「デラウエア」、3年生は「巨峰」の栽培を担当し、出校日の8月20日（月）に収穫した「デラウエア」を家庭に持ち帰り、味わったとのことでした。「巨峰」につい



審査の様子



親子審査の様子



農林水産大臣賞

ても、9月4日(火)に収穫を予定しており「ぶどう」についての関心・知識の高い児童たちでした。また審査に先立って、愛知県農業総合試験場落葉果樹グループの上林主任研究員よりおいしいぶどうの見分け方等のお話があり、それを参考に審査を行いました。親子審査員は、「数多く並べられたぶどうを外観だけで審査するのは難しいが初めての経験でおもしろい」との感想もあり、審査は大変な様子でしたが、慎重に審査し、消費者特別賞などを決めていました。

一般公開と即売会

賞が決定した後は、出品されたぶどうの一般公開が行われ、来場者は、形の揃ったぶどうに魅入っていました。その他にも、農業総合試験場で栽培した7品種も紹介され、こちらは試食ができるということで、来場者、親子審査員は様々なぶどうを食べ比べていました。



試験場で栽培されたぶどうを親子で試食

<試験場から紹介された7品種>

シャインマスカット、安芸クイーン、サニールージュ、巨峰、ピオーネ、ゴルビー、翠峰

一般公開の後にJ A愛知東本店前のAコープ店頭で行われた即売会では、品評会に出品されたぶどうが安く販売されるとあって、販売が始まるとあっという間に売り切れとなりました。

愛知県のぶどう生産について

愛知県の平成18年産ぶどうの収穫量及び出荷量は以下のとおりです。

結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
496ha	1,100kg	5,450t	5,060t

(出典:農林水産省統計データ「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」)

愛知県のぶどうは、巨峰が中心で約7割を占めています。巨峰は栽培方法によって、「種あり巨峰」と植物成長調整剤ジベレリンを用いて種なしにした「種なし巨峰」に分けられます。「種なし巨峰」の栽培は愛知県において始められたもので、今日、愛知の「種なし巨峰」は市場において確固たる地位を占めております。なお、愛知の巨峰は全国4位の栽培面積及び生産量を誇っています。

市町村別(ぶどう全体)では、大府市、東浦町、豊橋市、東海市、岡崎市、新城市、三好町、豊田市、春日井市、安城市が県内でも生産が盛んです。

(株)大田花き 在宅セリ始まる

花き業界卸売の最大手である(株)大田花きが、平成19年8月1日(水)より、日本においては業界初となる「在宅セリ」の試験運用を開始した。在宅セリとは、直接市場へ行かなくても、インターネット環境と買参権があれば、どこにいてもセリに参加できるシステムである。このシステムを取り入れることにより買参人の利便性の向上が図られ、市場としてもセリの活性化へと繋がることを目的としている。

在宅セリの概要については、基本的には通常のセリ場と同様となっており、パソコンの画面には商品情報として「出荷者名称」「品種名」「入数」「口数」「色」「次回セリ情報」が表示される他、各セリ台のライブ映像も表示される。その他にも、インターネットならではの相場予告機能もあり、当日のセリ上場品を事前にインターネットで検索し、目当ての商材を登録しておくことにより、セリが近づくとを音で知らせてくれるとともに、指定のメールアドレスにメールで通知してくれる機能もついている。商品の引き取りについては15時までとなっており、配送については行っていない。



在宅セリの画面

在宅セリの試験運用の期間については8月1日(水)から8月31日(金)までとしており、試験期間中についてはユーザーも50名程に限定、本稼動に向けてシステムの調整や課題の洗い出しなどを行っている。また、試験期間中については初期導入費用(21,000円)及び月額使用料(1,575円)も無料となっている。

本県産の花きについても、数量はまだ僅かではあるものの、JA愛知みなみ、JAひまわり、JAあいち中央の輪菊、バラ、グロリオサなどが在宅セリで実際に取引されている。

いよいよ9月からは本稼動となるが、産地としても在宅セリにより、取引が今まで以上に活性化されることを期待したい。



市場でのセリ風景

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場(品目:豊水)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
18年実績	1,388	222 (16%)	284	長野 (65%) 愛知 (16%) 新潟 (9%)
19年見通し	1,500	250	250	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>7月の台風により、樹上損傷(キズ・スレ)が見られる。被害を受けなかったものについては、8月後半からのかんばつにより、出始めの頃の大玉傾向から、徐々に小玉になってきている。そのため、糖度は高く食味がよい。</p> <p>入荷量は、少なかった前年を上回るものの、平年よりは少ない。価格は、高かった前年をかなり下回る見込み。</p>		<p>最近、幸水 豊水 新高とシリーズ化して売場を確保している産地が多い。しかし、豊水は幸水と比較してまだまだ知名度が低いので、試食宣伝などにより認知度を上げるとよい。</p> <p>また、消費者は甘いものへの要望が強く、糖度の高いものが望まれる。</p> <p>梨は傷みやすいので、事故品の混入を避けるよう心がけてほしい。</p>		

東京都中央卸売市場(品目:ぎんなん)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
18年実績	40	25 (63%)	2,239	愛知 (63%) 埼玉 (13%) 静岡 (8%)
19年見通し	50	-	1,900	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産は8月から入荷が始まり、9月から本格化する。作柄は、概ね順調だが7月の曇天で若干成熟の遅れも見られる。8月に入り雨量が少なく、小玉化が懸念されるものの、収量は平年並みが見込まれる。埼玉、静岡も順調な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は、少なかった前年を大幅に上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>		<p>ぎんなんは秋の味覚として業務筋を中心に安定的な需要がある。</p> <p>愛知産は9月から本格的に入荷が始まるが実需者の評価が高いため、出荷に際しては、特にサイズの統一、裂果の取り除きなど品質の安定を図り、栽培面積の維持と安定出荷をお願いしたい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100				
		愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年 3月	99.8	98.9	108.2	102.2	104.2
	4月	100.1	104.7	98.2	102.1	105.5
	5月	100.4	103.2	109.9	102.1	104.8
	6月	100.2	95.5	115.5	102.3	102.0
	愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8
19年 3月		100.2	94.8	111.8	98.9	105.6
4月		100.4	99.4	104.5	98.7	106.9
5月		100.6	100.6	112.8	101.3	105.0
6月		100.5	95.5	115.3	102.1	103.2

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
		全 国 平成17年 = 100				
全 国	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年 2月	99.7	96.6	99.2	118.0	97.6
	3月	102.4	96.1	104.5	100.9	98.8
	4月	98.0	96.4	93.3	107.0	97.9
	5月	95.0	96.5	92.3	90.4	98.1
	6月	90.2	96.4	92.4	95.4	99.4

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	い こ ん	ん じ ん	ま ね ぎ	ゅ う り	マ ト	しい た け	ん(ご ふ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年 3月	2,226	108	152	466	465	275	110	241	216	495	713	187	514
4月	2,243	170	185	493	449	273	147	312	220	440	686	191	520
5月	2,251	204	168	494	477	300	146	357	204	439	544	201	557
6月	2,226	136	171	593	353	278	147	320	187	406	483	197	586
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(カ	き	バ	豚(牛(ま
	か ん	レ フ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウ フ イル ツ	せ 茶 茶)	 ネ シ ヨ ン	く	ラ	肉 ス)	肉 ス)	ぐる
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g	1 本	100g	100g	100g	100g
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年 3月	720	403	549	157	266	649	597	174	175	328	225	754	516
4月	-	353	544	137	280	741	607	161	169	314	217	760	503
5月	-	337	552	139	268	754	608	177	163	315	222	783	489
6月	-	336	542	-	262	741	598	162	157	292	223	793	497

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 411
平成19年9月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417